

華中調查速報第一七一號
昭和十六年五月

國民政府公報抄（邦譯）

民國三十年三月三十一日	第一五五號
民國三十年四月二日	第一五六號
民國三十年四月四日	第一五七號
民國三十年四月七日	第一五八號

與亞院華中連絡部



凡 例

- 一 本輯の名稱を華中調査速報とす
- 一 調査速報には國民政府公報及各院、部公報並に江蘇、浙江、安徽、の各省公報及南京、上海市公報の邦譯を掲載す
- 一 調査速報の内容は法規に屬するものは原則として全部之を輯録する方針なるも特に速報する價值僅少なりと認めらるゝものは翻譯を省略又訓令以下は重要なるもののみを摘録す
- 一 調査速報は元來華中調査資料として編輯すべきものなるも速急に報告するを適當と認め「速報」とす
- 一 調査速報は華中連絡部政務局の翻譯、編輯に係る

目 次

一、軍 隊 教 育 令	一
二、陸海空軍人訓條	五九

軍 隊 教 育 令

(中華民國三十年三月二十四日修正公布)

綱 領

- 一 軍隊教育ノ目的ハ軍人及軍隊ヲ訓練シ國家ノ爲戰爭ノ任ヲ擔當セシムルモノニ在リ此レニ因リ有形上ノ學術技能等ニ對シテハ固ヨリ精密ノ教育ヲ施行シ而シテ過去諸種ノ經驗ニ徵スレバ無形上ノ堅實ナル軍人精神及嚴肅ナル軍紀竝ニ護國ノ觀念ハ實ニ戰爭ニ取リテ重大ナル要素ナリ須ラク之ヲ涵養シ振興スベシ又生ヲ捨テ義ニ就キ、恥ヲ知り名譽ヲ重ンジ、人民及物ヲ愛シ老人長上ヲ敬ヒ、武勇忠貞等ニ至リテモ亦軍人ノ備フベキ性格ナリ軍隊教育中ニ在リテハ凡テ奮勵シテ之ヲ擴張充實スベシ
- 二 軍官(將校)ハ軍隊ノ骨幹ナリ軍中一切ノ無形上ノ修養ハ凡テ

- 之ニ依ル以テ主體ト爲ス故ニ平日ニ於テハ努力シテ其ノ身心ヲ陶冶シ一言一行部下ノ模範ト爲スヲ得バ自ラ部下ヲ服シ得ベシ軍官ハ又軍隊教育ノ中樞ナリ故ニ該博ナル識量ヲ修養シ卓越ナル技能ヲ練成シ以テ教育上最善ノ效果ヲ擧グベシ自ラ身ヲ以テ模範ト爲シ嚴明、誠愛、寬急宜敷ヲ得バ自ラ能ク士氣ヲ振ヒ起シ精神ヲ昂揚シ得ルモノニシテ部下ヲシテ自然ニ信シ敬ヒ誠心ニ服從スルモノナリ
- 三 軍人精神ハ軍隊教育上ノ首要地位ナリ故ニ諸事ニ對シテハ必ラズ精神教育ヲ以テ主ト爲スベシ
- 四 軍紀ハ軍隊ノ命脈ナリ數百萬人ヲ集メテ軍隊ト成スニ能ク上下一心鞏固ニ團結スルコトヲ得バ危險安全、苦難安樂ヲ問ハズ命令一度出レバ之ニ從ヒ行動シ大軍ノ動作ヲシテ一人ノ如クナラシムルコトハ之レ軍紀ノ爲ナリ故ニ嚴肅ノ軍紀ヲ養成スルコトハ軍隊

教育ノ要務ナリ

五

教育責任ヲ負ヒタル長官ハ士兵ヲシテ能ク其ノ各自ノ職務ヲ自覺セシメ三民主義及和平建國ノ意義ヲ認識シ軍隊建設ノ目的及世界大勢竝ニ我ガ民族ノ現在ノ地位ヲ明瞭ニシ親愛精誠ノ主旨ヲ基ニシ充分ノ熱誠ヲ傾ケ上下一致肝胆相照スコトヲ得バ自ラ命令一下ノモトニ欣然從事スルコトヲ得ベシ但シ徒ニ其ノ自覺美名ヲ待ツノモトニ坐シテ部下ノ放縱ヲ見ルコト能ハズ

六

周密ナル計劃、嚴格ノ教練ヲ實施スルコトハ軍人ノ振興及軍紀整備ノ要道ナリ而シテ實行ノ方法トシテハ即チ諸般ノ演習、内外勤務及起居行動ノ間ニ在リテ有影ノ課目ヲ以テ無影ノ精神ヲ涵養シ諄々ニ善導シ終始怠ルコトヲ得ズ野外演習ノトキニハ尤モ特ニ之ヲ注意スベシ

七

体力ノ強健、武技ノ熟練ハ以テ自信力ヲ増加スルニ足ル故ニ軍

3

八

人ハ德育、智育ノ外ハ身体ヲ鍛練シ武技ヲ練習スルコトヲ要シ然シテ始メテ堅忍不撓至難ノ任務ヲ克ク盡シ得ルモノナリ
軍人ハ國民ノ首要部分ヲ占ム其ノ教育ノ善惡ハ社會ノ風俗ヲ左右スルモノナリ蓋シ兵營ニ在リテ若能ク國民ノ模範ト爲シ得レバ則チ退伍シテ必ラス國家ノ良民トナルベク軍隊教育ノ任ニ當ルモノハ直接ニハ國ヨリ戰國教育ヲ以テ本旨トスルモ而シ間接ニハ即チ國民ヲ陶冶シテ誠實剛健ナル氣風ヲ養フモノナリ

第一章 總 則

第一

一 本令ニ規定セルモノハ軍隊教育ニ關スル事項ナリ憲兵隊、軍樂隊、擔架兵、工率及經理、衛生等ノ部ノ教育ハ別ニ之ヲ定ム

第 二

二 本令中別ニ明文アルヲ除クノ外凡テ師又ハ師長（日本ノ師團又ハ師團長）ト稱スルモノハ獨立旅又ハ獨立旅長之ヲ適用シ

旅又ハ旅長（日本ノ旅團又ハ旅團長）ト稱スルモノハ獨立團又ハ獨立團長及同等ニ編制シタル部隊ニ凡テ之ヲ適用ス團（日本ノ聯隊）ト稱スルモノハ獨立營又ハ獨立營長（日本ノ大隊又ハ大隊長）及同等ニ編制シタル部隊ニ凡テ之ヲ適用シ連又ハ連長（日本ノ中隊又ハ中隊長）ト稱スルモノハ獨立連及同等ニ編制シタル部隊（獨立排）（日本ノ小隊）ニ凡テ之ヲ適用ス野山騎砲兵及野戰重砲兵ヲ野戰砲兵ト稱ス又攻城重砲兵及塹壕重砲兵ヲ重砲兵ト稱シ防空砲兵ヲ高射砲兵ト稱ス以上ヲ總稱シテ砲兵トス

第 三 各地ノ綏靖司令部及華北治安總署並ニ同等ノ機關ハ其ノ條例ニ依リ各兵科ノ專門事項ニ就キ軍隊ノ教育ヲ指導スベシ師長、旅長ハ各其ノ教育上ノ職責ニ依リ部下ニ對シ隨時之ヲ督指導スベシ

團長ハ全國ノ教育責任ヲ負ヒ本令ノ趣旨ヲ遵守シ及上官ノ定メタル計劃實施ニ從ヒ極力ニ軍官團ノ團結ヲ鞏固ニシ及士氣ノ振興ヲ計リ以テ教育ノ進歩ノ目的ヲ達成スベシ

團ニ屬スル營長ハ團長ノ意圖ニ基キ本營各連ノ教育ヲ監督指導シ連ヲシテ精進スベク務メ以テ本營練成ノ實ヲ貢フベシ

連長ハ部下ヲシテ軍人ノ性格及各該本兵科ノ技能ヲ備ハシメ而シテ其ノ團結ヲ鞏固ニシ本連練成ノ實ヲ貢フベシ

排長ハ連長ノ指示ニ從ヒ本連ノ教育ヲ分任スベシ團内ニ在リテ各種教育ノ監督ニ任ゼラレタル長官ハ團長ノ意圖ニ基キ該項ノ教育ヲ監督指導シ力メテ進歩ヲ計ルベシ

軍士ハ該班ノ領袖ニシテ教育上ノ職責ニ於テハ極メテ重シ須ラク有形無形ノ中ニ於テ各兵ヲ誘導シ各兵ヲシテ軍人ノ本能ヲ備セシムベシ

上等兵ハ一般兵ノ模範兵ナリ班長ヲ輔佐シ教育ノ進展ヲ容易ナラシムベシ
 獨立營、連、排、隊等ハ第二條及本條ノ趣旨ニ準ジテ之ヲ行フベシ

四 精神教育タルモノハ乃チ教育ノ基礎ニシテ一切教育ノトキニ隨時之ヲ開發誘導スルノミナラズ即チ寤寐（アケクレ）ノ間ト雖モ忽ニシ得ザルモノナリ故ニ直接教育ニ任ゼラレタル者ハ須ラク材料ヲ搜集網羅シ豫メ之ヲ設ケ又ハ企圖シ若ハ臨機應變懇切ニ説明シ心ニ銘セシメテ之ヲ忘レズ身ヲ以テ行ハシムルコトヲ肝要トスベシ

五 戰時ヲシテ軍機ヲ誤リ無カラシメンガ爲ニハ總テ平時ニ於ケル軍隊教育ノ眞劍ニ在リ故ニ教育ニ任ゼラレタル者ハ努メテ之ヲ廢除スルヲ除クノ外極力之ヲ研究スベシ縱ヒ戰時ニ在リテ

モ亦時機ヲ利用シ教育ヲ勵行スルコト緊要ナルベシ

六 幹部ハ直シク適切ニ部下ヲ指導スル能力ヲ備フベシ故ニ自ラ研究シ以テ其ノ技能ヲ増進シ而シテ其ノ進詣ヲ深クシ且自己ノ心得ヲシテ確實ニ部下ニ移ラシムベシ教育方法ハ啓發式又ハ注入式ヲ用ヒ若ハ兩方ヲ兼ネテ施行シ必ラズ詳々誘導シ被教育者ヲシテ樂シク教育ヲ受ケシムベシ且各自ノ研究ヲ獎勵シ專ニ際シ臨機應變ヲシテ事後ニ於テ其ノ會得セルヲ否ヤ應用シ得ルヤ否ヤヲ察シ且詳細ニ説明批評ヲ加ヘ以テ始テ教育ノ責任ヲ盡スコトヲ得ベシ

七 教育監督者ノ責任ヲ盡シ得ルヤ否ハ教育ノ効果トハ至大ノ關係アリ而シテ監督指導ノ要件ハ教育實施者ヲシテ該土宜ノ意圖ヲ體得シ旺盛ノ元氣及企圖心ヲ持チ以テ教育ニ從事シ且與範令及各種規約ノ精神ヲ實現セシムルニ在リ故ニ教育監督者ニ

第

當ル者ハ此ノ趣旨ニ基キ詳細ニ研究ヲ行ヒ豫メ監督計劃ヲ立テ且常ニ教育ノ場所ニ赴キ深ク其ノ現地ノ實情ヲ察シ適當ニ之ヲ誘導指導スベシ但シ責任分立ノ本意ヲ諒察シ各責任者ノ職權ニ對シテモ亦尊重スルコト緊要ナルベシ

八 軍隊教育ノ絕對要件ハ作戰ヲ充分満足ナラシムルモノニ在リ故ニ教育ニ當ルトキハ專ラ戰時ノ要求ヲ基礎トシ課目研究ノ輕重本末ニ對シテハ能ク戰場ニ於ケル必需ノ事項ヲ會得セシムルコトヲ要シ進ンデハ其ノ應用能力ヲ鍛練シ若能ク將來ノ戰爭性質、國軍ノ編制裝備及動員計劃上ニ於ケル人員充用ノ關係ヲ深ク知ラサジムコトヲ得レバ則チ教育ハ之ニ因リ愈切實ヲ加ラ

第

テ教育研究ノ手段方法ト爲シ而シテ周到ノ計劃及準備ヲ行フコト緊要ナリ

九 軍隊教育ノ實施要領左ノ如シ

- (一) 教育ハ統一スベシ典範令及各種ノ規則ニ基キ適切ニ施行スルコトヲ要ス
- (二) 教育ハ普及スベシ各級官佐及各種士、兵、夫ハ凡テ所要ノ教育ヲ受ルコトヲ要ス
- (三) 教育ハ順序ニ從ヒ漸進スベシ先ニ各部分ニ從ヒ綿密ニ施行シ然ル後漸次綜合シテ之ヲ達成スルコトヲ要ス故ニ其ノ計畫及實施ニ付テハ此ノ趣旨ニ適合スルコトヲ要シ且過去ノ經驗ヲ採リ以テ將來ノ改善ニ資シ進ンデハ創意及動機ヲ發達セシメ以テ逐年其ノ實績ヲ擧グベシ
- (四) 教育ハ時間ヲ節約スベシ事前ニ適當ノ計劃及周到ノ準備

ヲ爲シ時至レバ之ニ依リ施行スルコトヲ要ス

(五) 教育ハ平時、戦時、行軍、駐軍タルヲ間ハズ凡テ間斷ナク機會教育ヲ施行スルコトヲ要ス

(六) 教育ハ被教育者ノ個性ニ適應スベシ性質、思想、宗教、遺傳、體力、身分、經驗、職業、嗜好、家庭狀況、入伍前ニ受ケタル教育ノ程度等ニ對シテハ直接教育スル者ハ詳細ニ之ヲ知悉スルコトヲ要ス

(七) 教育ハ地方ノ風俗人情ヲ明察スルコトヲ要シ適當ナル手段及方法ヲ取りテ其ノ風俗習慣ヲ改メ而シテ其ノ惡習ノ矯正ニ努力スベシ

(八) 教育ハ豫定計畫ニ依リ實施スベシ長官ノ命令ニ因リ之ヲ修正スルヲ除クノ外ハ努メテ確實ニ施行スルコトヲ要ス從ヒ障害アリト雖モ亦力メテ排除シ又ハ方法ヲ講ジテ之

ヲ補救シ原計畫ノ變更ナキ様盡カスベシ

第十 空軍ノ進歩及兵器ノ精良ハ夜間ノ戦闘ニ取り實ニ重要ナリ各部隊長ハ夜間ノ教育ニ對シ各其ノ典範令ノ法則及要求ニ基キ適當ニ計畫シ綿密ニ之ヲ施行スベシ以テ應用ヲ期スルコト緊要ナリ

第十一 工事ハ力メテ實用ヲ求ムベシ故ニ各兵種ハ各其ノ法則ニ依リ能ク確ニ其ノ擔當セル工事ノ陣地ニ至ル迄ノ構成ニ任センメ深キ強靱ノ性質ヲ備フルコトヲ要ス歩兵ハ此ニ對シ特ニ注意スベシ

第十二 技術ト戦闘ノ勝敗トハ關係甚大ナリ故ニ各兵種ニ對シテハ之ヲ切實ニ教練シ以テ士兵ノ體力強健及自信ノ能力ヲ備ウルコトヲ期スベシ

第十三 兵器、彈藥、馬匹、裝具及一切ノ戦争用ノ器材ハ軍隊方任

務ヲ達成スル工具ナリ被服、糧秣及一切ノ官有物ハ軍隊ノ必要
品ナリ故ニ其ノ購入、設備及補充ハ凡テ國家ノ資材ヲ仰グモノ
ナリ之ガ戰時ニ於テハ運輸容易ナラス補充困難、之ヲ救済スル
方法ハ實ニ軍隊ノ節約使用及愛護ニ俟ツモノナリ故ニ隨時各地
ニ切實ニ教育シ士兵ヲシテ心ニ銘シ之ヲ習慣ナラシムベシ
第十四 衛生ノ良否ハ戰鬥力及軍隊精神ニ影響スルトコロ甚大ナリ
故ニ教育上ニ於テハ内務及學術教育ニ注意シ相輔ケテ之ヲ行フ
ベシ

大軍ノ至ル所水ノ使用ニ對シ常ニ不足ヲ虞ル而シテ山地及水ノ
缺乏セル地方ニ在リテハ尤モ困難ヲ感ズルモノナリ故ニ平時ニ
於テハ水ノ使用節約ノ習慣ヲ養成スベシ

第十五 軍隊機動力ノ要件ハ行軍力ノ強大ニアリ故ニ各部隊ハ行軍
ノ教育ニ對シ切實ニ之ヲ施行シ且逐次各兵卒及馬匹ノ負擔力ヲ

増加シ戰時ニ於ケル武裝ノ全重量ニ達セシムベシ強行軍、急行

軍、夜間行軍ニ於テハ尤モ力行之ヲ鍛練スベシ

第十六 内務、衛戍及其ノ他ノ各勤務ニ對シテハ嚴密ニ之ヲ實行セ

シムベシ則チ心性ハ修養ニ於テハ頗ル効果アリ故ニ教育者ハ其

ノ實行ニ際シ細微ノ處ナリト雖モ亦周密ニ注意スルコトヲ要シ

而シテ適當ニ指導シ以テ教育ノ完成ヲ計ルコト緊要ナルベシ

第十七 馬術ハ乘馬兵種及其ノ他ノ乘馬スベキモノノ任務ヲ達成ス

ル要項ナリ嚴格ニ訓練シ力メテ熟練ヲ期スベシ又馬匹ノ調馴係

育モ亦適切ニ施行スルコトヲ要シ且其ノ愛馬心ヲ養成スベシ晚

馬・馱馬ニ對シテハ尤モ愛護スベシ

第十八 船舶、鐵道ノ運輸ニ對シテハ作戰上ニ於ケル關係至大ナリ

凡テ一般ノ船舶及輸送中ノ動作ニ對シテハ秩序ヲ嚴守シ敏捷確

實ニ力メ機會ヲ利用シテ之ヲ教育スベシ

第十九 各種ノ交通設備及材料ノ保護ニ對シテハ軍隊及軍人ノ共同義務ナリ保護ヲ受クベキ任務ノ有無ヲ問ハズ凡テ一體ニ之ヲ注意スルコトヲ要ス此ノ種ノ習慣ハ教育ノ時ニ之ヲ養成スベシ

第二十 軍隊ト關係アル科學及外國文ニ對シテハ各人ノ職務及原有能力ニ依リ適當ニ之ヲ教育又ハ獎勵スベシ
我が國ノ士兵ハ字ヲ讀ラザル者甚ダ多ク教育ニ對シテハ殊ニ困難ヲ感ズルモノナリ特ニ識字一課ヲ増設シ以テ其ノ能力増進ヲ補助ス

第二十一 凡ソ我が國ニ取リテ光榮アル史實及重大ナル國恥又ハ所屬部隊ノ戰績若ハ先輩戰友ノ建テタル勳勞等ニ對シテハ凡テ精進マシメ教育ノ重要資料ナリ機會アル毎ニ詳細ニ之ヲ講演シ以テ各人ノ自覚ヲ促シ其ノ人格ヲ高尚ナラシムベシ

第二十二 軍事學校ノ教育ハ軍隊教育ノ改良進步ノ樞要ナリ故ニ軍隊

教育ニ任ゼラレタル者ハ力メテ之ト連絡ヲ計リ以テ教育ノ進歩ヲ求ムベシ舊キヲ固守シ進取ヲ計ラザルモノナキコト緊要ナリ

第二十三 賞罰ノ當否ハ教育ノ成果ニ影響スルトコロ至大ナリ慎重ニ行使スルコトヲ要シ且嚴正公平・私情ニ拘ハリ怨ヲ持ツコトアルヲ得ズ被罰者ノ事後ノ指導ニ對シテモ又慎重タルベシ

第二十四 教育用ノ表冊ニ關シテハ直接教育ニ任ゼラレタル者ノ實用ノ便利及將來參考トナルベキモノヲ以テ主眼ト爲ス故ニ簡潔精密ナルコトヲ要シ徒ニ外觀ヲ尙ブコトアルヲ得ズ

第二十五 毎年十二月上旬ヨリ翌年十一月下旬迄ヲ教育年度ト謂フ其ノ名稱ハ翌年ノ年ヲ以テ之ヲ稱ス

第二十六 期日通りニ入伍出來ザル新兵ノ教育ニ對シテハ本令規定ノ第一期教育ニ依リ之ヲ施行スルコトヲ得其ノ後ハ其ノ各課目ノ教育時日ノ程度ヲ斟酌シテ本年度ノ前期ノ入伍者ト勉メテ合併

スルコトヲ計ルベシ但シ該年度ノ秋季演習前ニ於テ新兵教育ヲ完成スル能ハザルトモハ翌年度ニ繰入ルモトス

第二章 一般教育

第二十七 一般教育ハ軍隊教育ノ主體ニシテ其ノ目的ハ兵卒及各級幹部ヲ訓練シ以テ精良ノ軍隊ヲ練成スルニアリ

第二十八 一般教育ヲ容易ニ實施スル目的ヲ以テ教育年度ヲ若干期ニ分ツ各期内ニ於テハ實施課目及其ノ進度ヲ明定ス

其ノ標準ハ教育順序表第一乃至第二十七附表ノ如シ

教育順序表ハ別ニ規定アルヲ除外凡テ初年兵ヲ以テ標準ト

爲ス其ノ進度ハ孰レモ最低ノ要求ニ依リ之ヲ定ム未ダ進度ノ規定ナキトモハ則チ第一年度ノ未だ各兵科ノ要求ニキ要求ト合ハ

ザルモノヲ以テ標準ト爲ス

第二十九 兵八營ノ日ヨリ第一年度ノ末日迄其ノ間ノ教育ヲ初年兵

教育ト稱ス但シ第一期ニ在リテハ新兵教育ト稱シ第二年度ヨリノ教育ヲ常年教育ト稱ス

第三十 新兵教育ハ軍人ノ基本教育ナリ士兵ノ精神トハ密切ノ關係アリ且後ノ教育ノ基礎ト爲スニ足ル故ニ入營シタル後ハ努メテ意ヲ用ヒ教練ヲ加ヘ以テ根本ヲ堅固ナラシムベシ又其ノ軍隊生活ノ興味ヲ呼ビ起シ規則ノ遵守勵行及各種ノ善良ナル習慣ヲ養成スベシ

第三十一 常年教育ノ第一期ハ過失ヲ矯正スルヲ除クノ外戰場上ノ必要課目ヲ教授スルコトヲ主ト爲シ極力熟練ナラシメ且其ノ應用ノ能力ヲ養成スベシ以後ノ各期ニ於テハ其ノ既得ノ技能ヲ増進シ並ニ其ノ應用ノ能力ヲ熟練ナラシメ以テ其ノ獨斷ヲ活カシ而シテ機宜ニ適合シタル動作ヲ可能ナラシムベシ

第三十二 優秀ナル士兵ハ其ノ程度ヲ高メ又ハ上級ノ職務ヲ執行セシ

メ努力シテ之ヲ獎勵誘導スベシ

第三十三 歩兵隊、騎兵隊、戰車隊、野戰砲兵隊、高射砲兵隊、鐵甲車隊、通信隊及輜重兵隊ハ左記ノ區別ニ依リ分業教育ヲ施行スベシ而シテ其ノ分業教育ハ初年兵ノ第一期ノ間（通信隊ハ則チ第二期）ニ速ニ之ヲ開始スベシ

歩兵連（日本ノ中隊）ハ步銃手、輕機關銃手、擲彈筒手ニ分ツ

騎兵連（日本ノ中隊）ハ騎銃手、輕機關銃手ニ分ツ

戰車隊ハ射撃手、操縱手ニ分ツ

野戰砲兵隊（山砲兵ヲ含マズ）ハ砲手、馭手ニ分ツ

高射砲兵隊ハ砲手、觀測手ニ分ツ

探照隊ハ照射手、聽測手ニ分ツ

鐵甲車隊ハ機關銃手、砲手ニ分ツ

通信隊ハ通信手、建築手ニ分ツ

輜重兵隊ハ一般兵、自動車手ニ分ツ

第三十四 空中勤務ハ航空隊（飛行機隊、飛行船隊、機球隊ヲ包括ス）ノ活動主體ナリ「故ニ各教育期間内ハ隨時之ヲ練習スベシ」同

時ニ精練有爲ノ勤務員ヲ養成スベシ但シ本科ニ之ヲ教育ス

細部ニ付テハ航空司令部ヨリ之ヲ規定ス

各部隊ハ防空業務ニ對シ行軍、駐軍又ハ戰鬪ノ際ナルヲ問ハズ

凡テ緊要ナリ尤モ空中警戒及連絡ニ對シテハ各教育期間内ニ隨

時之ヲ練習スベシ

毒瓦斯ノ偵察及掃除（拂ヒ除ク）ニ關シテハ專門技術ニ屬スト

雖モ而シ其ノ一般ノ防備法ニ對シテハ隨時之ヲ練習スルコト緊

要ナルベシ

第三十五 特別事故ニ遇ヒテ附表通りニ實施スル能ハザルトキハ新兵

教育ノ變更ヲ得ザルモノヲ除クノ外其ノ他各期ノ日數及課目ノ

進度又ハ區分ニ付テハ師長又ハ旅長ヨリ理由ヲ軍事訓練具申シ許可ヲ受ケテ之ヲ處理スルコトヲ得

第三十六 戰時ノ要求ヲ満足セシムル目的ヲ以テ戰時ニ近キ編制備ヲ爲スベシ

部隊ハ常ニ演習ヲ行フ本師旅又ハ他ノ師・旅ノ同一兵種若ハ兵種ト聯合シテ聯合演習ヲ施行スルトキハ其ノ効力尤モ大ナリ編制・裝備ノ同シカラザル適ニ對シテハ對戰演習ノ實行モ亦要ナリ

第三十七 教育順序表内ニ定メタル課目ハ凡テ典範令ニ從ヒ之ヲ實施ス然シ必ラス實施及實用ニ適スルヲ要ス同時ニ且敬禮及閱兵ノ制式ヲ授クベシ以上ヲ術科ト通稱ス
各期間ニ於テ休憩等ノ事故ヲ除クノ外少クモ毎日一回實施シ毎回二時間トス

體操・刺突・武術・投擲等ハ又專ラ技術ト稱シ毎日一回實施シ毎回一時間トス

但シ各種ノ演習實施等ニシテ一日分ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十八 典範令及左ニ掲グル諸課目ハ學科ト通稱ス然シ術科ヲ授クルトキハ典範令中ノ士兵ノ實施ニ對シ知悉スベキ事項ヲ解説シ以テ學・術二科ノ進度ヲ一致ナラシムベシ其ノ他ハ則チ宣旨ニ於テ之ヲ講授ス其ノ教育時間ハ毎日一回トシ毎回一時間トス

陸軍禮式

軍隊内務

軍人ノ階級及服制

勳章・獎章（獎勵ノ爲ニ給與スル徽章）及褒賞ノ事項
兵器ノ名稱・拭淨法及保存・使用法

被服、裝具ノ名稱及裝着法、拭淨法

馬匹ノ取扱飼養及衛生法

各兵種ノ性能

軍隊編制ノ大要

陸軍刑法及懲罰令ノ大要

軍隊衛生法及救急法

毒瓦斯ノ概要及防備法

衛戍勤務

赤十字條約大意

識字課本及其ノ他必要ナル課目

第三十九 各期ノ精神講話ニ付隨時各地ニ於テ之ヲ施行スルヲ除ク外教育使用ノ回数中ニ於テ適宜ニ回数ヲ定ムルコトヲ要ス目的及講話ノ考案ニ對シテハ適切ニ之ヲ準備スベシ

第四十 各期ノ學科課目及進度ニ付テハ術科ニ注意シテ相互ニ連絡スルコトヲ要シ且實地ノ實物ニ就キ適切ニ施行シ以テ實用ニ適合セシムベシ若高深(難シ)ニ過ギ又ハ徒ニ暗記セシメタル之ヲ應用シ得ザルモノノ如キハ凡テ深ク戒シムベシ

第四十一 師、旅長ハ所屬部下ニ對シ軍學教育ノ使用回数ヲ防害セザル範圍内ニ於テ適宜政治訓練ヲ受ケシムベシ

第四十二 特務連、排ニシテ歩兵隊又ハ各該兵科教育ニ準ズル各部隊ニ勤務セル士兵ノ炊事、飼養ノ牧夫等ノ教育責任ハ專員ノ設ケアルヲ除ク外遠ニ在ルトキハ連長實ヲ負ヒ其ノ他ノ各部隊ニ在ルトキハ副官實ヲ負フベシ

第三章 特業教育

第四十三 特業教育ノ目的ハ所要スル士兵ノ戰鬥上ニ於ケル必要ナル特別技能ヲ養成スルニ在リ但シ之ニ因リ一般教育ヲ妨害スルコト

トアルヲ得ズ

第四十四 各種兵部隊ニシテ通信ニ關シ固定ノ編制アルトキハ其ノ教育ハ順序表ニ依リ之ヲ施行スルコトヲ要シ而シテ該部隊ハ再ビ通信ノ特業教育ヲ施行セズ

第四十五 本令ニ於テ特業ト稱スルモノ左ノ如シ

(一) 歩兵隊ノ通信手(固定ナキ通信隊編制ノ部隊ニ之ヲ適用ス)

(二) 戦車隊ノ通信手、鐵工手、發動機工手、電機工手

(三) 騎兵隊ノ通信手(固定ナキ通信隊編制ノ部隊ニ限ル)

(四) 野戦砲兵隊ノ觀測手、通信手、高射砲手、高射觀測手、照空手(高射砲手以下ハ高射砲ノ附屬アル野砲兵隊ニ限ル)

(五) 山砲砲兵及野戦重砲兵隊ノ通信手、觀測手

(六) 重砲兵隊ノ通信手、觀測手、高射砲手、高射觀測手、機關銃手、要塞砲塔手、要塞砲塔機關手、要塞機關手、要塞電燈手

(七) 高射砲兵隊ノ通信手、自動車手、高射機關銃手(高射砲隊ノミニ限ル)強流電機工手(照空隊ノミニ限ル)

(八) 野戦砲兵國內ニ於ケル高射砲兵隊ノ通信手、強流電機工手

(九) 工兵隊ノ通信手、木工手、鐵工手、石工手、機工手、候敵手

(十) 鐵甲車隊ノ鐵道諸工手(大工、鐵工、裝置工、旋盤工、磨工、釜工、鑄型工、發動機電機工手)鐵道機關員(鐵道機關手、鐵道機關助手)檢車手、鐵道通信手、列車砲觀測手、通信手、強流電機工手(高射砲ノ設備アルモノ)

ノミニ之ヲ用フ)

(十一) 通信隊

- 一 有線隊ノ木工手、鍛工手、電機工手
- 二 無線隊及電氣隊ノ木工手、鍛工手、電機工手、強流電機工手、機關工手
- (十二) 探照隊ノ電機手、通信手、自動車手
- (十三) 各隊ノ號兵(喇叭手)、視號通信兵(喇叭ヲ聞キテ通信スル兵)

(十四) 各隊毒瓦斯兵ハ第二期ヨリ教育ヲ開始ス

第四十六 航空隊ノ特業教育ニ關シテハ航空司令ヨリ之ヲ規定ス

第四十七 特業教育ハ特業候補者及特業適任者ノ二種ニ分ツ特業候補

者ノ教育ハ第一年度ヨリ之ヲ開始ス其ノ教育期間左ノ如シ

(一) 歩兵隊ノ通信ハ第二期ノ初ヨリ秋季ノ演習前迄トス

(二) 戰車隊ノ通信、鍛工、發動機工、電機工ハ第二期ノ初ヨリ本年度末迄トス

(三) 騎兵隊ノ通信ハ四月上旬ヨリ秋季ノ演習前迄トス

(四) 砲兵隊(高射砲隊ヲ除ク)ノ觀望通信ハ二月上旬ヨリ約

七月間トス

(五) 重砲兵隊ノ高射砲、高射觀測ハ二月上旬ヨリ約七月間ト

シ機關銃ハ四月上旬ヨリ射擊演習前迄トス

(六) 高射砲兵隊ノ通信、自動車、高射機關銃、強流電機工ハ

二月上旬ヨリ(高射機關銃ハ五月上旬ヨリ)本年度末迄

トス

(七) 野砲兵隊ニ於ケル高射砲隊ノ通信、強流電機工ハ二月上

旬ヨリ本年度末迄トス

(八) 工兵隊ノ通信ハ四月上旬ヨリ約五月間トス

木工、鍛工ハ六月上旬ヨリ秋季ノ演習前迄トス

石工ハ七月以後約一月間トス

機工ハ五月上旬ヨリ秋季ノ演習前迄トス

候敵ハ七月以後約二月間トス

(九) 鐵甲車隊ノ鐵道詣工ハ三月上旬ヨリ約七月間トス

鐵道機關ハ三月以後ヨリ本年度未迄トス

檢車ハ三月以後ヨリ約四月間迄トス

鐵道、電信ハ三月上旬ヨリ約七月間トス

(十) 通信隊ノ木工、鍛工ハ四月上旬ヨリ約六月間トス

強流電機工、機關工ハ三月上旬ヨリ約八月間トス

(十一) 探照隊ノ電機、自動車、通信ハ三月上旬ヨリ約六月間トス

(十二) 各隊ノ號兵(喇叭手)、視號通信兵ハ第二期ノ初ヨリ本

年度未迄トス

特業適任者ノ教育期間ハ特業候補ノ後ヨリ離隊期迄トス

野砲兵隊ノ高射砲手、高射觀測手、照空手及重砲兵隊ノ

要塞砲塔手、要塞砲塔機關手、要塞通信手、要塞電燈手

等ハ必ラズ砲兵教育機關ノ教育ヲ受クベシ

第四十八 特業教育ノ用フル日數其ノ標準左ノ如シ

各種特業候補者(野砲兵隊ノ高射砲、高射觀測、照空、重砲兵

隊ノ機關銃、要塞砲塔、要塞砲塔機關銃、要塞通信、要塞電燈

高射砲隊ノ高射機關銃、航空兵隊ノ各種特業及各隊ノ喇叭手ヲ

除クノ外)ノ教育ハ每週約四日トス但シ步兵隊ノ通信候補者、

最初ノ二月内ニ於テ、每週約二日トシ鐵甲車隊ノ各種特業候

者ハ每週約五日ヲ以テ標準トス

特業適任者ノ教育ハ每週約二日トス但シ步兵隊ノ通信手ハ每週

約三日トシ又工兵隊ノ石工手、機工手及鐵甲車隊ノ鐵道諸工手
鐵道機關員、檢車手等ハ適當ニ復習セシムルコトヲ要ス又要塞
砲塔手、要塞砲塔機關手及要塞電燈手ハ每年少クトモ二十日復
習セシムルコトヲ要シ要塞通信手ハ每週約二日トス
重砲兵隊ノ機關銃及高射砲隊ノ高射機關銃ノ教育ハ適當ニ之ヲ
實施スベシ

號音(喇叭吹キ)練習ハ每週約三日トス步兵隊ニ屬スルトキハ
每週約四日トシ號兵(喇叭手)ハ每週少クテ一日トス

特業(喇叭手ヲ除ク外)候補者ノ教育ニ付必要アルトキハ相當
ナル期間ニ之ヲ連續實施スルコトヲ得

第四十九 步兵隊ノ通信教育ハ全國ニ之ヲ實施スベシ他處ニ分駐セル
步兵營ノ通信教育ハ該營内ニ於テ之ヲ實施スルコトヲ得但シ固
定通信隊ノ編制アルトキハ第四十四條ニ依リ之ヲ處理ス團長ハ

戰時ノ必要ヲ顯慮シ尉官ヲ派遣シテ通信教育ヲ受ケシムルコト
ヲ得

第五十 騎兵隊ノ通信教育ニ付團ナルトキハ全國ニ之ヲ實施スベシ
獨立連ナルトキハ連ニ於テ之ヲ實施ス但シ固定通信隊ノ編制アル
ルトキハ第四十四條ニ依リ之ヲ處理ス

部隊長ハ戰時ノ必要ヲ顯慮シ尉官ニ命ジテ通信教育ヲ受ケシム
ルコトヲ得

騎兵師、旅内ノ通信教育ニ付若師、旅長ガ必要アリト認メタル
トキハ若干團ヲ合併セシメテ之ヲ教育スルコトヲ得

第五十一 砲兵隊ノ觀測及通信教育ハ各連ニ於テ之ヲ實施ス但シ必要
アルトキハ團、營ヲ合併シテ之ヲ教育スルコトヲ妨ズ

重砲兵ノ高射砲、高射觀測及機關銃ノ教育ハ須ラク全國ニ之ヲ
實施スルコトヲ原則トス

團長ハ戰時ノ必要ニ依リ尉官ヲ派遣シテ機關銃ノ教育ヲ受ケシムルコトヲ得

重砲兵隊ノ要塞砲塔手、砲塔機關手、通信手、電燈手ノ教育ハ全國ニ要塞ノ備ヘアル兵器ヲ用ヒテ其ノ技能ヲ練習セシムルコトヲ得

高射砲隊（野砲兵團ノ高射砲隊ヲ含ム）ノ特業（高射機關銃及喇叭手ヲ除ク外）教育ハ各連ニ於テ之ヲ實施ス必要アルトキハ聯合シテ之ヲ教育スルコトヲ得高射砲隊ノ高射機關銃教育ハ全國ニ之ヲ實施スベシ

砲兵隊ノ特業教育ノ其ノ詳細辦法ハ砲兵旅ニ於テ之ヲ規定ス
第五十二 士兵、鐵甲車、通信、探照隊ノ特業（喇叭手ヲ除ク外）教育ハ全營、隊ヲ合シテ之ヲ實施スベシ
以上各特業教育ノ其ノ詳細辦法ハ最高統率者ニ於テ之ヲ規定ス

第五十三 喇叭手及視號通信兵ノ教育ハ通常全國（他處ニ分駐セル兵營ハ該營ニ於テ之ヲ爲ス）ニ之ヲ實施スベシ

歩兵隊以外各隊ノ喇叭手及視號通信兵候補者ノ教育ニ付若已ムヲ得ザル事情アルトキハ旅長ノ許可ヲ經テ他部隊ニ依託シテ之ヲ教育スルコトヲ得

第五十四 全國、營、隊ノ人員ヲ集合シテ特業教育ヲ實施スルトキハ副團長、副營長、副隊長又ハ其ノ他ノ長官ヲシテ之ヲ監督セシムベシ

第五十五 特業候補者ノ教育ハ大略ニ修得セシムルニ在リ特業適任者ノ必要ナル基礎動作ハ特業適任者ヲシテ之ヲ補充スルトキノ任務ヲ達成シ得ルコト緊要ナリ
特業適任者ノ教育ニ對シテハ既學ノ技術ヲ熟習セシメ且其ノ必要ナルモノヲ選擇シテ之ヲ補習セシメ以テ本教育ヲ完成セシム

ルコトヲ原則トス

第五十六 團長ハ通信教育ノ進步ニ依リ野外ノ各種演習及幹部ノ演習ヲ舉行スベシ其ノ際ニ通信手等ヲ集合シテ實地應用ヲ練習セシムルコトヲ緊要ナリ

第五十七 師、旅長ハ適宜ノ時間ヲ通信手ヲ戰時ノ用ヲベキ人員ヲ以テ通信隊ヲ編成シ通信演習ヲ施行スベシ

第五十八 各種工卒ノ教育ニ關シテハ其ノ他ノ學校又ハ工場ニ委託シテ之ヲ教育セシムルコトヲ得

第五十九 軍官教育ノ目的ハ其ノ性格及道德心ヲ涵養シテ其ノ學識及技能ヲ増進シ及統率指揮ヲ方法手段ヲ會得セシメ以テ能ク潮流ニ適應シ其ノ職責ヲ盡サシムルニ在リ

第六十 團長以下ノ各部隊長ハ其ノ部下ノ軍官ヲシテ其ノ職責上必

要ノ實務ヲ熟練セシムベシ

要ノ實務ヲ熟練セシムベシ

團長ハ軍官團々長ノ資格ヲ以テ團員ニ對シ所要ノ教育ヲ實行スルコトヲ要シ以テ軍官團設立ノ目的ヲ達成スベシ若必要アルトキハ適當ナル人員ヲ選拔シテ一部分ノ教育ヲ擔任セシメ又ハ之ヲ補助セシムルコトヲ得師、旅長ハ部下ノ軍官教育ヲ促進スル目的ヲ以テ適宜ノ方法ヲ採用シ以テ其ノ能力及他兵種ノ學識ヲ増進セシムルコトヲ得

第六十一 團長ハ軍官團ノ精神、歴史及現狀ニ基キ周到ノ注意及誠實懇切ノ情誼ヲ以テ適當ニ團員ヲ指導シ團員ヲシテ親愛和睦、全國家庭ノ如キ精神ヲ修養セシムベシ

第六十二 軍官ノ個性已ニ同シカラズ且階級、職務、經歷及服務年數ノ諸關係ニ因リ其ノ技能モ自ラ差別アリ故ニ其ノ教育ハ各人ニ適應セシムベク適切ニ之ヲ實施スベシ又其ノ不足ヲ補ヒ其ノ長